



学校だより

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを とともに生きよう感謝の心で

令和8年8・9月号

横浜市立谷本小学校

「もしも」を想像し、命を守る行動へ

校長 阿部一平

長い夏休みが明け、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。9月1日の「防災の日」をはじめ、9月は防災について改めて考える大切な時期です。この夏は熊本地震、そして先日の千葉豪雨と大きな災害が続きました。被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災された方々が1日も早く穏やかな日常を取り戻せるようお祈り申し上げます。

災害はいつ、どこで私たちの日常を脅かすか分かりません。決して他人事と捉えることなく、被災された方々の思いや教訓を心に刻み、未来へつないでいく必要があります。ある防災専門家の方は、次のような言葉を残されています。

「『まさか自分が』という思い込みを『もしかしたら』に変える。それが防災の第一歩です」
学校では、子どもたちが定期的な避難訓練を行っているほか、社会科の授業などを通して「自分たちのまちの防災」や「災害時にできること」について深く考えています。「まさか」を「もしかしたら」と捉え直し、自分の命を自分で守る判断力を養う学習を、これからも大切に続けてまいります。しかし、実際の災害時には学校や子どもたちだけの力では守りきれない場面もあります。そこで重要になるのが、ご家庭や地域の皆様との連携です。

9月は、総合防災訓練（引き取り訓練含む）を実施いたします。大地震等の発生を想定し、確実にお子様を保護者の皆様にお渡しするための重要な訓練です。また、例年2月には自治会や防災組織の皆様が中心となる「地域防災拠点訓練」も予定されており、学校と地域が一体となって備えを深めています。こうした機会に、ぜひ改めて知っておいていただきたいのが「いっとき避難場所（一時避難場所）」の存在です。地震発生直後、身の安全を確保し火災などの危険から避難するために、近隣の皆様が一時的に集まる屋外の安全な場所です。大半の場合は近くの公園になります。（学校が一番近い場合は学校がいっとき避難場所になることもあります。）

「我が家のいっとき避難場所はどこか」「そこまでの道に危険な場所はないか」。ぜひこの防災月間にご家族で話し合い、実際に歩かれてみてはいかがでしょうか。ご家庭・地域・学校が手を取り合い、「もしも」に強いまちを共に作っていきましょう。